

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1690500135		
法人名	有限会社 滝川		
事業所名	グループホーム ひまわり		
所在地	富山県氷見市余川1153-2		
自己評価作成日	令和3年11月15日	評価結果市町村受理日	令和4年3月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人富山県社会福祉協議会		
所在地	富山県富山市安住町5番21号		
訪問調査日	令和3年12月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎朝の申し送り時に理念である「一人ひとりもまわりの人も笑顔で互いの喜びを」を唱和し、理念の原点を振り返る。毎日、順番に今日一日の目標を伝え、その日の目標が実践できるよう協力している。一人(利用者)ひとり(職員)の笑顔がひきだせることに日々努めている。地元に住む職員がパイプ役になり、地域の情報や協力隊などの参加などスムーズに行われている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・管理者のリーダーシップと心配りで、日常的に職員の意見を取り入れ、パートを含む全職員のチームワークで少人数でも効率的な組織運営がなされている。
- ・炬燵のある談話室で、利用者一人ひとりが思い思いに過ごしたり、ゲームに興じたりしている。
- ・職員別に1~2名の担当者制となっており、ケアプラン変更やモニタリング表の作成は全員参加を原則としている。定期的カンファレンスは利用者の気づきや様子をきめ細かく記録し、利用者一人ひとりに即した計画作りを心掛けている。
- ・コロナ禍にあって、窓開け換気、除菌、清掃、整理整頓、お気に入りの場所や床の清潔を徹底している。
- ・生活感や季節感を尊重し生活の場を整えている。仏壇のお花や供え物の取り替えは毎日利用者が進んで行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は玄関、ホールに掲げ、毎朝の申し送り時に唱和している。毎朝、順番に職員の今日の目標を伝え、実践につなげている。	創業当時の理念が継続され、利用者や職員と一緒に唱和し、地域密着型サービスの質の向上に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し地域行事に参加していたが、コロナ禍のためイベントは中止されている。施設の消防訓練には地域の方に協力隊として登録してもらい参加してもらっている。	コロナ禍で多くのイベントは中止されたが、近隣住民は消防・防災訓練に参加しており、つながりを継続している。事業所ではコロナが終息することを待ち望んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍のため、地域の交流は中止だったが、施設の防災訓練に参加してもらい直接、関わってもらい理解を深めてもらう。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍のため、運営推進会議は書面での報告で開催したこととし、状況や活動報告を行った。	管理者は、運営推進会議の意義や、事業所運営の実態の開示の必要性和重要性を認識しているが、コロナ禍においては書面にて状況や活動を報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所や地域包括支援センターには日頃から連絡しやすい環境で相談窓口の開催など行い、協力関係は築かれてきている。	市役所とは、電話でのやり取りを中心に連携している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を年4回開催し、運営推進会議で報告している。振り返ることを重点としている。	身体拘束廃止委員会で「安全確保と自由な暮らし」と「いかなる場合も拘束は行わない」をモットーに支援しているが、利用者の安全のため、夜間から翌朝にかけて施錠による戸締まりをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	コロナ禍で外部研修は行けてないがカンファレンスで学ぶ機会を設け、日頃から職員同士が意識できるよう注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	コロナ禍で外部研修は行けていないが、カンファレンスで学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は時間をかけてわかりやすいような説明を心がけている。改定時には職員だけでも説明を行い書面にして同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時になんでも言ってもらえるような雰囲気作りに努め利用者の状況を伝えられるよう情報共有に努めている。	個人チェック表に、利用者一人ひとりの様子や思いを記録したものを職員ミーティングで情報共有し、運営に反映することでサービスの質の向上に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや個人面談を行い、意見や悩みを聞いている。小規模施設の職員との交流でマンネリ化防止に努めている。	施設長は、ミーティング、個人面談、勉強会を定期的に行い職員の意見を運営に反映させている。また、日々のコミュニケーションをとることに心掛け、双方向の関係を重視している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場の環境や状態を把握できるよう代表者自ら現場に入っている。勤務状態や勤務希望など個別に対応し、できるだけ働きやすい環境づくりに配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍で外部研修など意欲的には参加はできなかったが、職員一人ひとりの力量を把握し、個々の強みを活かしてケアをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍でラン伴や認知症の徘徊模擬訓練などの行事がなかったが地域での介護有志の会があり気軽に連絡を取り合い、相談などを行なっている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用の相談時には家族だけではなく利用者本人ともできるだけ時間をかけて面談する。本人に適した職員を担当につけ、馴染みの関係づくりができるよう配慮する。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族や利用者本人の言語的なものだけではなく、表情や仕草などを観察し、非言語的なものからも把握できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	これまでの生活の経過を聞き取り、本人がその人らしく生活できるように、どんなサービスが必要かを見極めて柔軟な対応に努める。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員、利用者がそれぞれ自分を活かした役割を持ち、教わり、教えることで互いを支えあう関係づくりに努める。また、人生の先輩として敬う気持ちを大切に関わっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者本人と家族の関係性を理解し、家族ができる協力はできるだけお願いしている。利用者本人が安心して過ごせる様、支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で外出は自粛していたが、窓越しでの面会は、行っていた。コロナが落ち着くと自宅に外出してもらう。面会や毎日の電話での会話は継続されている。	コロナ禍ではあるが、状況が落ち着いている場合は歯科診療、自宅周辺の見回り、車のお出かけ等徐々に外出機会を増やしている。農園では、利用者と職員と一緒に野菜を育てている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりの性格や関係性を把握し、自然にお互いの役割を見出せるように配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても気軽に相談や遊びに来てもらえるような信頼関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者のしたい事できる事を自然に促し、できるよう配慮している。記録は本人の様子が一目でわかるよう顔文字を記入している。ニコニコマーク☺が増えるよう努力している。	「利用者気づき・様子記録」で一人ひとりの思いや意向を分かり易く記録している。意思疎通が困難な場合は、表情や日常生活等から把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス利用時に生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境など情報提供をお願いしている。また、日々の暮らしの中、気づきを書き出し情報の共有に努める。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の暮らしの様子を記録し、情報共有する。本人との会話の中からや仕草、表情から心身状態の変化に対する気づきを大切にしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	私の気持ちシートの活用や毎月の本人の目標を定め毎月モニタリングを行い、実践に繋げている。	担当者が毎月モニタリングを行い、全職員で話し合っている。定期的にカンファレンスを行い、本人や家族、管理者、ケアマネジャー、担当医等、多職種の意見を反映し介護計画を作成している。変化があれば見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録をありのままに記録し、気づきや状態の変化の情報共有に努めている。朝の申し送り時やカンファレンスで話し合い実践や介護計画を見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族の状況に合わせ、臨機応変な対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域防災協力者の支援で消防訓練を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在は全員、訪問診療になり主治医が2週間に1回往診されている。緊急な対応も受けていただけるので家族も職員も安心している。検査など受診が必要時は家族に依頼している。診療結果は家族に伝え、面会時に状態確認してもらっている。	利用者全員が協力医を希望され、隔週で訪問診療を受けている。緊急時に協力医の往診を受けられる体制を築いている。検査があれば家族が付き添い受診し、結果報告を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同法人の訪問看護ステーションと医療連携を図っている。いつでも24時間相談や指示が受けられる環境がある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は生活状況や服薬などの入院情報状況書を提供している。救急搬送時は主治医に紹介状作成を依頼し提供してもらう。退院時も同様、サマリーや主治医の紹介状を提供してもらっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	訪問看護ステーションとの連携を図り、看護師、医師と連携体制でチームで安心して看取りを支援している。申し込み時に看取りが魅力だと言われる。今年も一人末期がんで看取っている。	看取り研修会を行っている。週1回、訪問看護師が訪問し体調管理を行い、急変時は、訪問看護や協力医の往診があり家族は安心している。本人や家族と終末期ケアについて話し合い、信頼関係を築きながら状態に応じた支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作り、実践力が身につくように訓練を定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は地域防災協力者さんに協力してもらい行っている。今年は協力者さんには電話連絡からの動きで、マニュアルに沿って行う。ホーム職員の手作りのタンカやスロープで2か所からの避難をスムーズに行えた。	火災、地震、水害時の訓練を実施している。自治会、地域の方が避難訓練に参加し地域との協力体制を築いている。竹と毛布でタンカを作り利用者を避難場所に移動し訓練している。備蓄品は離れの倉庫と施設内に保管されているが、備蓄量が少ない。	保管場所毎の備蓄品を一覧表にし全職員に周知し、災害時を想定し、十分な備蓄ができているか確認することが望ましい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの思いを尊重し、穏やかに暮らしていきけるよう配慮している。職員が利用者に指示や否定的な言動をしないように自分を振り返ることができる環境保持に努めている。	年2回接遇研修を行い、言葉遣いに気を付けるように心掛けている。3月に全職員が自己評価を行い目標を決め、翌3月に再評価を行って職員の資質向上につなげている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中において、さりげない会話や仕草から本人の思いを察知して対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活リズムやペースを守りながら支援している。本人の気持ちがいやすい環境作りに努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の整容時でもできる事は自分でおこなってもらい入浴後の着替え準備など自分で選んでもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	外部委託の献立を温め直す程度の準備だが、手作りおやつや自家菜園の大根の漬物を利用者さんと一緒に楽しく作っている。一人ひとりの力量に合わせて盛り分けや片付けの役割がある。	ご飯、みそ汁は手作りだが、おかずは外部で調理されたものを温めている。米とぎ、茶碗拭きなど出来ることは職員と一緒に利用者が行っている。野菜作り、おやつ作りにも積極的に参加している。職員は食事の見守りを行っている。	以前はメニューを考え手作り料理であった。手作り料理で香りを楽しんだり、利用者と同じ食事を摂るなどして楽しい雰囲気づくりに努められるよう期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に合わせて食べやすいように随時検討し、対応している。本人の好きなおやつや果物は家族に依頼している。食事が少ない場合は補助食品で対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施し、清潔保持に努めている。舌のケアや義歯の消毒など毎日おこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンをつかみ、タイミングに合わせてトイレ誘導を行う。また、安全に排泄できるよう環境整備に配慮している。	排泄チェック表にて個別にトイレ誘導を行っている。夜間帯はポータブルトイレで安全に排泄できるよう、環境を整えている。オムツ対応の方は睡眠の妨げにならないように気を配っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを行い、個々に応じたスタイルで自然排便できるよう体操や水分補給に努めている。また、訪問看護師と連携を図り、排便コントロールしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の状態に合わせてリフト浴を行い安全安心して入浴している。1対1でゆったりと入浴している。本人が入浴したくない日などは無理強せず柔軟に対応し、日にちをかえている。ゆず湯やしょうぶ湯などで季節を楽しんでもらっている。	週2回は入浴して清潔保持に努めている。体調不良の場合は清拭、着替えを行い、入浴拒否があれば日にちを変えている。好みのシャンプーを使用したり、ゆず湯、しょうぶ湯等で季節感を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣を大切に無理強せず、個々のペースで過ごしてもらっている。枕や毛布などなじみの物を使ってもらい安心して休んでもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬や症状など看護師と連携を図り、職員が分かりやすいように一覧を作成し確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の役割を見つけ出し、頼られる喜びや達成感を感じていただけるよう配慮している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出や外泊は自粛していたが、状態をみて自宅へ外出をしよう。天気がいい日に近くの花壇の花やお地藏様まで散歩に行っている。桜やひまわりなど季節に合わせてドライブに行き気分転換をしている。	以前は外食、買い物、地域との交流など外出を楽しめたが、コロナ禍からは周辺の散歩や花見、ドライブ、野菜作りなど楽しんでいる。コロナが落ち着いている時は家族と2時間ほど自宅に行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣い程度のお金は預かり好きなものや必要なものを購入できるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎日、決まった時間に家族からの電話があり、お互い安心されている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	古民家調の落ち着いた中、南向きの和室にはコタツやソファがある。和室からデッキにそのまま出られるので、天気の良い日には日光浴している。仏壇に毎朝、お僕様を供え、一日1回はお経を読んで穏やかに過ごされている。	居間は天井が高く吹き抜けになっている。テレビを見たり貼り絵を楽しんでいる。会話が楽しめるようなソファの配置となっている。畳の部屋にはコタツがあり、テレビを見たり昼寝ができる。一日一回、仏壇にお経をあげたり、天気の良い日はデッキで日光浴をして過ごしたりしている。加湿器も使用している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとり落ち着く場所があり、ソファや席など配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	寝具や家具など馴染みの品で安心して過ごせるよう配慮している。馴染みの暖簾やソファで安心されている。	居室は西側と東側で明るく、エアコン、ベッドが備え付けられ、一部畳部屋もある。家族の写真、ソファ、衣装ケースなどを置き居心地よく過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に自立した生活が送れるよう、環境整備の調整や状態に合わせて居室の変更を検討することを了承いただいている。排泄や移動など安全にできるよう検討している。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	保管場所毎の備蓄品を一覧表にて全員に周知し、災害時を想定し、十分な備蓄ができているか確認する。	職員全員が備蓄品の確認ができるようにする。	備蓄品が離れの倉庫にあるため確認しにくい ため施設内に移動し、職員全員が周知できるようにする。	1ヶ月
2	40	以前はメニューを考えて手づくり料理であった。手づくり料理で香りを楽しんだり利用者と同じ食事を取るなどして雰囲気作りに努める。	週1回の利用者中心でできる手作りおやつを行う。	手づくりおやつなど利用者と一緒に料理ができる機会をつくり、利用者とともに職員も楽しめられるように計画する。	1ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。